

村民の皆さまへ

自分の家族または地域を守るのは皆さまです。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方に甚大な被害をもたらしました。また、近年、地球温暖化などの影響により各地で大きな自然災害が発生しています。

災害は、いつ・どこで・どのように発生するか予測が付きません。村では、地域住民の安全を守るために防災対策の充実に努めているところですが、安全な地域づくりは、行政機関の活動だけでは不十分です。皆さま一人ひとりが日頃から防災意識を高く持ち、自分や家族の身の安全を守る取組み（自助）や、地域の皆さまで助け合う取組み（共助）を続けていき、万が一の災害に備えることが防災の原点といえます。

この防災ハザードマップは、皆さまの近くの危険な箇所などを地図に掲載いたしました。また、防災に対する日頃の心構えや準備物の例などもイラストなどでわかりやすく掲載しています。

ぜひとも、ご家庭の目に付くところに常備され、家族や地域で災害に対する話し合いの中でご活用いただければ幸いです。

令和2年2月
山添村長 森 中 利 也

本書の使い方

本書は、いずれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。

本書の特徴は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しています。通常時は、地図部分や「わが家の防災・緊急情報メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるして身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

索 引	
村民の皆さまへ 本書の使い方 索引	1
避難行動ガイド	2
特別警報をご存知ですか？	3
土砂災害	4
風水害対策	5
洪水ハザード情報について	6
地震対策	7
火災対策	8
わが家の防災対策&チェック	9
非常時持出品の準備&チェック	10
わが家の「防災・緊急情報」メモ	11
ライフライン・公共施設・集会所	12
全体図	13・14
詳細図 No.1	15・16
詳細図 No.2	17・18
詳細図 No.3	19・20
詳細図 No.4	21・22
詳細図 No.5	23・24
詳細図 No.6	25・26
詳細図 No.7	27・28
詳細図 No.8	29・30
警戒レベル 防災気象情報などの入手方法（裏表紙）	

発行：山添村（問い合わせ：総務課 0743-85-0041） <https://www.vill.yamazoe.nara.jp/>
制作・著者：株式会社ゼンリン 奈良営業所 作成：令和2年2月 ©2020 ZENRIN CO., LTD.

詳細図：「この地図は、山添村長の承認を得て、山添村地形図及び山添集落図1/5,000を使用して調製したものである。（承認番号）山添総第242号の2」
「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。（承認番号 平29情使、第444-1310号）」

避難行動ガイド

村では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、皆さんに避難を促します。避難勧告などを発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します。

避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

1 避難所・避難場所への移動。	2 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所への避難。 (公園、親戚や友人の家など)	3 近隣の強固で高い建物などへの移動。	4 建物内の安全な場所での待避。 (家屋内への垂直避難) やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には、斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。
屋外が安全で移動できる状態のとき			屋外が危険な状態のとき

避難行動に関しての行政発令の種類と、住民の皆さんの対応

避難勧告などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難勧告」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「**自主避難**」をお願いします。

警戒レベル	区 分	立ち退き避難など住民の皆さんの行動
3	避難準備・高齢者等避難開始	・ 気象情報に注意を払い、立ち退き避難の必要について考える。 ・ 立ち退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立ち退き避難をする。 ・ 要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動が困難な人) は、この段階で立ち退き避難をする。
4	避難勧告	・ 非常時持ち出し品をもって、立ち退き避難をする。
	避難指示(緊急)	・ 避難勧告を行なった地域のうち、立ち退き避難がまだの人は、立ち退き避難する。 ・ 立ち退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。
5	災害発生	・ 命を守る最善の行動をとる。

※「**自主避難**」とは・・・避難勧告などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動(**自主避難**)することが命を守ることになります。



避難の際には、ご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう。



お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。



インターネット・気象庁ホームページ



テレビ・ラジオ

大雨のとき

河川の近くや、土砂災害の恐れがある区域に対して、村が設定している基準に達した場合に、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。また、従来までの想定以上に短時間で大雨が想定される場合、短時間で避難準備・高齢者等避難開始が発令されずに避難勧告、避難指示(緊急)が発令される場合もあります。各自で早めの判断をおこない、「危ない」と判断したら、ただちに危険な区域から離れる「**自主避難**」することが生命を守ることになります。



地震のとき

大きな地震に伴って、多くの家屋が崩壊し、その後の余震により家屋が倒壊するおそれがあるとき、又は火災が発生して大規模な延焼拡大のおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

※直ちに避難所を開設するよう努めますが、時間がかかる場合があります。



火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



その他

災害が発生するおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基 準	
大 雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴 風	数十年に一度の強度の台風や 同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高 潮		高潮になると予想される場合
波 浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大 雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大津波警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合（大津波警報を特別警報に位置づける）
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合（噴火警報（噴火警戒レベル4以上）及び噴火警報（居住地域）を特別警報に位置づける）
地震（地震動）	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合（緊急地震速報（震度6弱以上）を特別警報に位置づける）

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波等が予想されます。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・気象庁ホームページ



防災無線・広報車

- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917（耳の不自由な方向け）

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp>

特別警報について

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

土砂災害

身のまわりでこんな現象が起こったら、すぐに近所の人や役場へ知らせ、安全な場所に避難しましょう。特に大雨が降っているとき、降ったあとは要注意です。

■ かけ崩れ（斜面崩壊） 急な斜面が崩れる

かけ崩れの前ぶれ

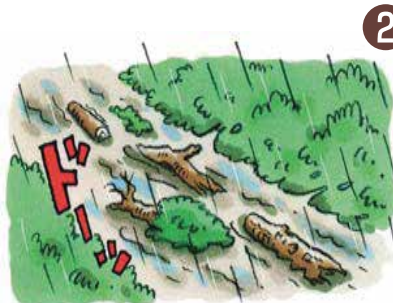


避難所への移動が困難な時は、かけから離れた部屋や2階などに避難しよう。

- ① かけから小石がパラパラ落ちてくる。
- ② 樹木がゆれたり、かたむいたりする。
- ③ 斜面から水がわき出る。
- ④ 斜面にひび割れができる。

■ 土石流 山から崩れた土や石が水といっしょになって、ものすごい勢いで流れ下ってくる

土石流の前ぶれ



土石流から逃げる時は、川から離れてなるべく高いところにあがろう。

- ① 川や沢の中でゴロゴロという音がしたり、火花が見えたりする。
→ 上流の山が崩れ、大きな石がぶつかり合いながら流れてくるため。
- ② 川や沢の流れがにごり、生の木が流れてくる。
→ 上流の山が崩れて、土砂や木が川や沢を流れているため。
- ③ 山鳴りがする、異常なおいがする、地鳴りがする。
→ 上流で山が崩れているため。
- ④ 雨がふり続けているのに川や沢の水が減る。
→ 上流の川や沢が崩れた土砂でせき止められているため。土石流の危険がせまっている。



■ 地すべり やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く

地すべりの前ぶれ



- ① 池の水がにごったり、減ったりする。
- ② 山の樹木がザワザワとさわぐ。木の裂ける音や木の根が切れる音がする。
- ③ 地鳴りや山鳴りがする。
- ④ わき水がふえる。
- ⑤ 地面にひび割れや段差ができる。

⚠ ここにあげたのは前兆現象の一例です。このほかにも「いつもと何か違う」と感じたら、県や役場、近所の人に知らせて安全な場所に避難してください。

出典元：「地震のあとは土砂災害に注意」（2011年4月 土砂災害防止センター制作）

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



大雨注意報・ 警報の 発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれ
があると予測される場合。

- ・1時間に雨量が40mm以上
- ・土壌雨量指数基準79以上(山添村は89以上)

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる
おそれがあると予測される場合。

- ・1時間に雨量が60mm以上
- ・土壌雨量指数基準118以上(山添村は119以上)

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づら。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出しやすい。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生しやすい。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、
気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

常に気象情報には、
注意して
おきましょう！



地下道(アンダーパス)に注意！

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。

洪水ハザード情報について

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

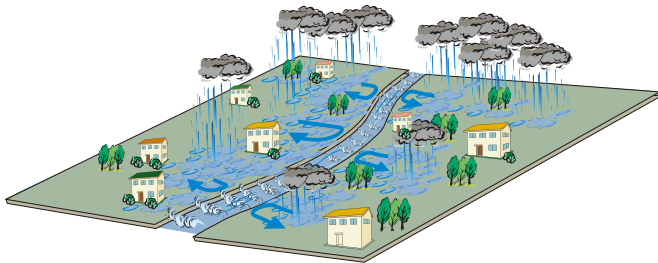
1

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

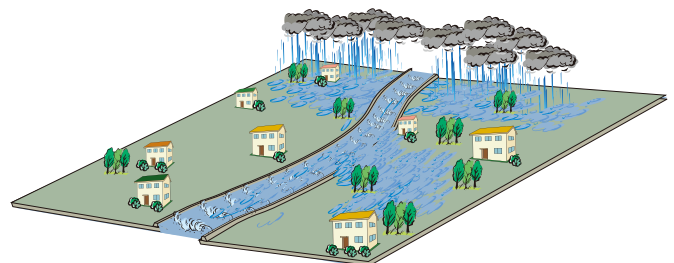
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



2

洪水情報

洪水注意報(気象庁)

- 大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

洪水警報(気象庁)

- 大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

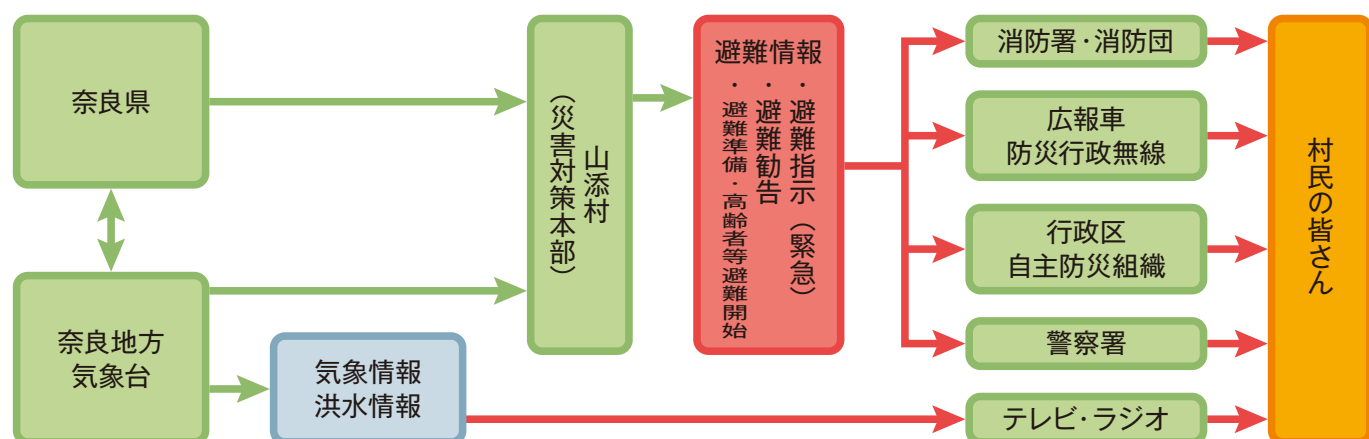
洪水危険箇所

- この「山添村防災マップ」に掲載している「洪水浸水想定区域」は、淀川水系名張川の洪水予報区間について、水防法の規定により想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 雨の降り方によっては、地図上に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。

3

洪水情報伝達ルート

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

地震対策

地震発生！そんなときどうする

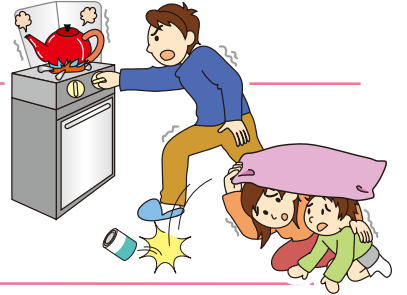
地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保（手近な座布団などで頭を保護）
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声をかけよう

- 隣近所で助け合う 災害弱者の安全確保
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

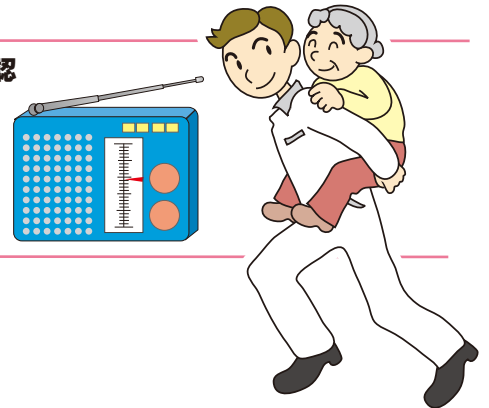
出火防止
初期消火

- 初期消火
- 消火器を使う
- バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる
- 救出・救護を
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分
数時間
3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

地震は、いつ、どこで発生するかわかりません。日ごろから地震時にあわてないために備えておきましょう。また、どのような行動をとるべきか、覚えておきましょう。

●地震が起こったときの行動 グラツときたら、まずは自分の身を守る…

1. まずは自分の身を守りましょう



丈夫な机やテーブルの下にもぐり、揺れがおさまるのを待ちましょう。

2. すばやく火の始末を



ただし、揺れが激しい時には無理をせず、揺れがおさまるのを待ちましょう。

3. 家具や棚から離れる



タンスやテレビが転倒し、負傷しないために離れる。事前に転倒防止措置をしておく。

4. 窓や扉を開けて、出口を確保



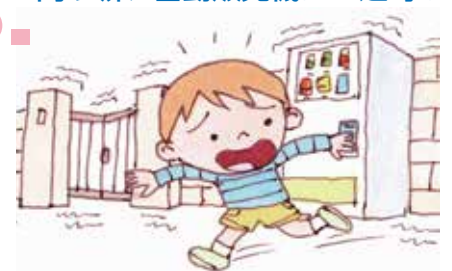
余震によりドアがゆがんだりして、開かなくなるため、避難路を確保する。

5. あわてて、家の外に飛び出さない



瓦やガラスなどの落下物による負傷をさけるため、あわてて外に飛び出さない。

6. 門や塀、自動販売機には近寄らない



門や塀などが倒れてくる危険があるので、近寄らない。

火災対策

火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



2

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れて広がっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

火災予防が一番!!

火災報知機の設置義務化

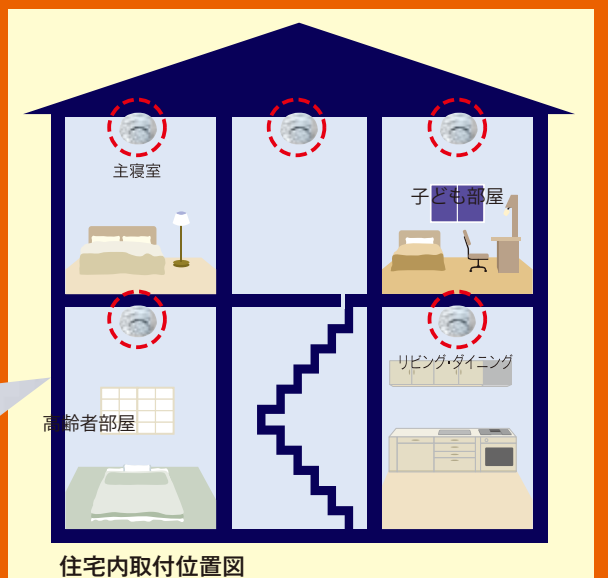
消防法の改正により、住宅用火災報知機の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災報知機の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所への設置も必要です。

警報機



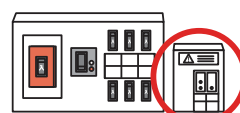
住宅内取付位置図

感震ブレーカーが効果的です

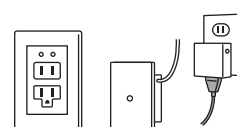
「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。



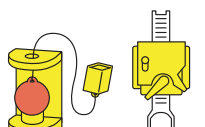
分電盤タイプ(内蔵型)



分電盤タイプ(後付型)



コンセントタイプ



簡易タイプ

わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック▼しましょう。

1

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

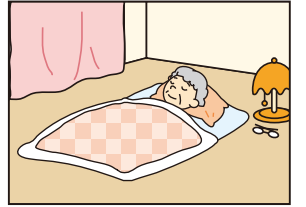
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



2

□ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

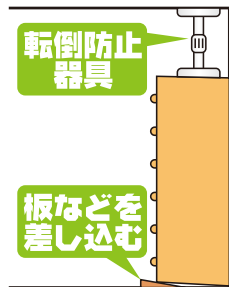
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



3

□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4

□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

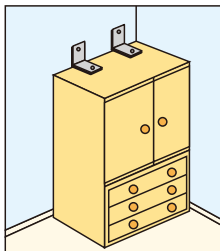
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

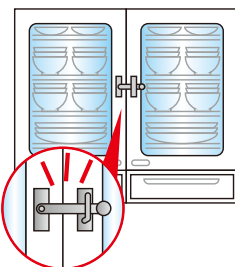
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



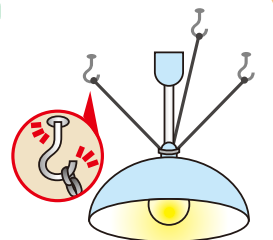
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



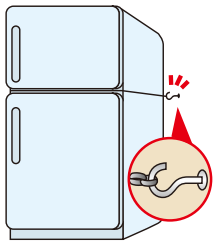
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



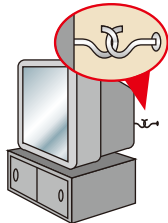
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



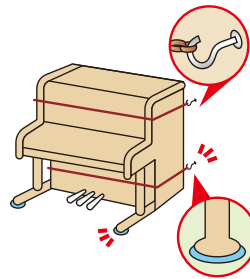
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。またテレビの上には水槽や金魚鉢を置かない。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック▼しましょう。

雨どい

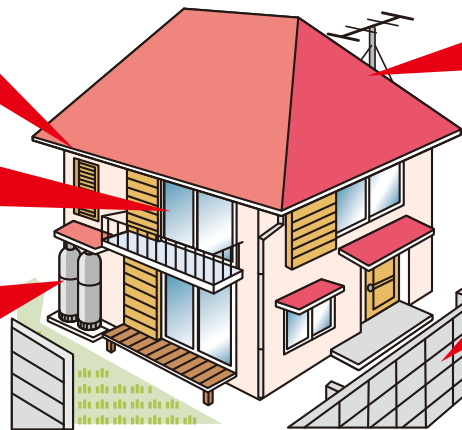
継ぎ目のはがれ、塗料のはがれなどを確認。落ち葉や土砂が詰まっていたら取り除く。

窓ガラス

窓枠のガタつき、ゆるみなどがあれば補強する。飛散防止フィルムを貼る。

屋外の設置物

プロパンガスのボンベはしっかり固定する。強風で飛ばされたり、浸水で流されたりしそうなものは確認する。



屋根

かわら・スレートのひび割れやずれなどを点検する。不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

地域(自主防災組織)での防災活動

阪神淡路大震災のときに、家などの下敷きとなった方の多くを救助したのは、隣人や友人など共助によるものが62.6%を占めていました。大災害が発生すると、警察や消防では十分に対応できない可能性があります。「自分たちの村は自分たちで守る」という意識のもと、いざというときは地域の自主防災組織を中心に協力し助け合い、防災活動に取り組みましょう。

平常時の活動

- 防災研修会を開催(防災知識の普及)
- 防災点検(地域の危険箇所や要援護者の把握等)
- 防災訓練(防災活動に必要な知識・技術の習得)
- 地域防災情報紙の発行



災害時の活動

- 初期消火や救出・救護
- 避難誘導
- 避難所での給食・給水等の活動
- 情報収集と伝達(被災状況・避難者情報等)
- 避難所の運営



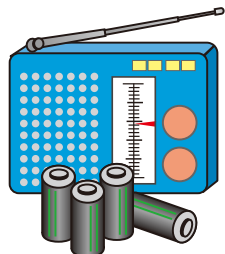
非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医療品



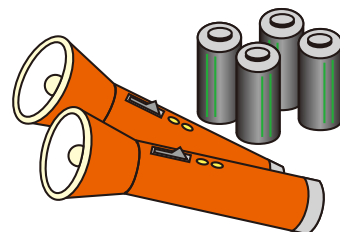
- ☐ 常備薬
- ☐ 絆創膏
- ☐ 傷薬
- ☐ 包帯
- ☐ 風邪薬
- ☐ 胃腸薬
- ☐ 鎮痛剤

貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 預貯金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 免許証
- ☐ 健康保険証
- ☐ 権利証書

懐中電灯



- ☐ 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)

非常食品



火を通さなくて食べられるもの、食器など

- ☐ カンパン
- ☐ 非常用食品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 水筒
- ☐ 缶詰
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ

その他

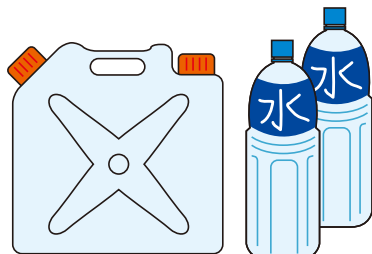


- ☐ 衣類(下着・上着など)
 - ☐ 生理用品
 - ☐ 離乳食
 - ☐ ウェットティッシュ
 - ☐ ヘルメット
 - ☐ ラップフィルム
 - ☐ タオル
 - ☐ 粉ミルク
 - ☐ 紙おむつ
 - ☐ カップ
 - ☐ ライター
 - ☐ 防災マップ(本書)
- (止血や食器にかぶせて使う)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



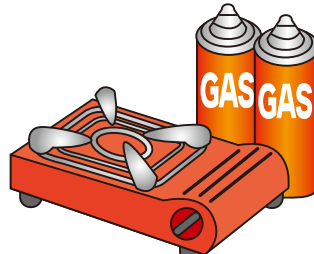
- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど

非常食品



- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

その他



- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)スコップなど。

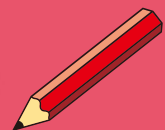


阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限が迫ったものから順に入れ替えておきましょう。

わが家の「防災・緊急情報」メモ



非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・村に情報を提供します。

氏 名		電 話	
住 所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏 名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住 所	メ モ

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏 名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関
【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報（介護情報・救急隊員への伝言など）をお書きください。					

緊急時 連絡先	氏 名	間柄	電 話	住 所	メ モ

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171-1-0000-00-0000 (被災地の方の電話番号)	伝言保存期間	録音してから48時間
伝言の再生	171-2-0000-00-0000 (被災地の方の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり10伝言まで
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	一般電話（プッシュ回線、ダイヤル回線）、公衆電話、携帯電話（一部除く）等

ライフライン・公共施設・集会所

ライフライン関係機関

名 称	電話番号		電話番号
関西電力 奈良支店	0800-777-3081	こまどりケーブル (株)	0120-667-740
NTT 西日本 奈良支店	113 (固定電話) 0120-444-113 (携帯)	山添村役場 環境衛生課 // 農林建設課	0743-85-0047 0743-85-0046

公共施設・集会所

1 指定緊急避難場所

No	施 設 名	住 所	対象とする異常な現象の種類					想 定 収容人数	指定避難所 との重複
			洪水	土砂 災害	地震	大規模 な火災	内 水 氾 濫		
①	ひまわり保育園	三ヶ谷1500	●	●	●	●	●	180	●
②	さくら保育園	岩屋2740-1	●	●	●	●	●	180	●
③	すみれ保育園	北野1001	●	—	●	●	●	160	—
④	旧広瀬保育園(ブックカフェ)	広瀬225	●	—	—	●	●	220	—
⑤	やまぞえ小学校	春日1770-1	●	●	●	●	●	570	●
⑥	豊原公民館	三ヶ谷970	●	●	●	●	●	230	●
⑦	生涯学習施設 東豊館	岩屋2665	●	—	●	●	●	660	—
⑧	生涯学習施設 西豊館	箕輪680	●	●	●	●	●	750	●
⑨	山添中学校	大西1044	●	●	●	●	●	1120	●
⑩	東山公民館	桐山62-1	●	●	●	●	●	380	●
⑪	波多野公民館	春日1770-1	●	●	—	—	●	60	—
⑫	総合スポーツセンター	大西69	●	●	●	●	●	1030	●
⑬	ふれあいホール	大西1367	●	●	●	●	●	560	●
⑭	五月川センター	広瀬288-2	—	—	●	●	●	390	—
⑮	児童館・老人憩の家	西波多4922	●	●	●	●	●	290	●

2 指定避難所

No	施 設 名	住 所	想 定 収容人数	指定緊急避難 場所との重複	福祉避難所
①	ひまわり保育園	三ヶ谷1500	20	●	—
②	さくら保育園	岩屋2740-1	20	●	—
⑤	やまぞえ小学校	春日1770-1	170	●	—
⑥	豊原公民館	三ヶ谷970	60	●	—
⑧	生涯学習施設 西豊館	箕輪680	220	●	—
⑨	山添中学校	大西1044	330	●	—
⑩	東山公民館	桐山62-1	80	●	—
⑫	総合スポーツセンター	大西69	310	●	—
⑬	ふれあいホール	大西1367	160	●	—
⑮	児童館・老人憩の家	西波多4922	50	●	—
⑯	保健福祉センター	大西1395-1	30	—	●